

- (1) 工事コストの低減
- ③設計方法の見直し

法面保護工に高強度ネット工を採用し、コスト縮減

水資源開発公団岩屋ダム管理所 原石山跡地法面補修工事

【施策の概要】

現在、環境保全等の観点から恒久的な切土法面の保護（岩盤部）をモルタル吹き付け工法のみで対応することはほとんどありませんが、数十年前にはその簡易さ、経済性から多用されていました。

岩屋ダムの原石山の法面は、モルタル吹き付け施工後24年を経過し、劣化（ひび割れ、モルタル片の欠落）が進んだことから、補修が必要となりました。従来であれば吹き付け法枠工法を採用するのが一般的ですが、工事コストの縮減と周囲の景観に配慮し、高強度ネットとアンカーを組み合わせたネット抑止工法を採用することとしました。

【施策のポイント】

- ・通常であれば、切土の進行に追随しつつ法面保護を実施しますが、切土完了後の法面保護であり、法面高さも50mを越えることからプラント等の仮設が必要のない工法を採用することで仮設費の低減がはかれます。
- ・緑化工法と併用することで、施工構造物（ネット等）が完全に隠れ、環境保全の観点からも有利です。

これにより、本工事において従来の吹付法枠工法での施工に比べ、約20%の工事コストの縮減が図られました。

【施策の実施状況・イメージ図】

